

作成日: 2012年 12月 12日

改定日: 2022年 5月 12日

安全データシート

1 化学品及び会社情報

化学品名 : 水酸化ソーダ (Sodium hydrogen sulfite)
 会社名 : 南海化学株式会社
 住所 : 大阪市西区南堀江1丁目12番19号
 担当部門 : 営業本部 大阪ケミカル営業部
 電話番号 : 06-6532-5591
 FAX番号 : 06-6532-5597
 緊急連絡先 : 営業本部 大阪ケミカル営業部
 電話番号 : 06-6532-5591
 整理番号 : 017

2 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物 : 区分に該当しない
 可燃性ガス : 区分に該当しない
 エアゾール : 区分に該当しない
 酸化性ガス : 区分に該当しない
 高压ガス : 区分に該当しない
 引火性液体 : 区分に該当しない
 可燃性個体 : 区分に該当しない
 自己反応性化学品 : 区分に該当しない
 自然発火性液体 : 区分に該当しない
 自然発火性個体 : 区分に該当しない
 自己発熱性化学品 : 区分1
 水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない
 酸化性液体 : 区分に該当しない
 酸化性個体 : 区分に該当しない
 有機酸化物 : 区分に該当しない
 金属腐食性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

鈍性化爆発物 : 分類できない
 急性毒性 (経口) : 区分3
 急性毒性 (経皮) : 分類できない
 急性毒性 (吸入: 気体) : 分類できない
 急性毒性 (吸入: 蒸気) : 分類できない
 急性毒性 (吸入: 粉塵及びミスト) : 分類できない
 皮膚腐食性/刺激性 : 区分1A-1C
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
 呼吸器感作性 : 分類できない
 皮膚感作性 : 分類できない
 生殖細胞変異原性 : 分類できない
 発がん性 : 分類できない
 生殖毒性 : 分類できない
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分2 (呼吸器)
 区分3 (気道刺激性)
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない

環境に対する有害性

誤えん有害性 : 分類できない
 水生環境有害性 短期 (急性) : 区分1
 水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分に該当しない
 オゾン層への有害性 : 分類できない

GHSラベル要素
絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

: 危険
: 自己発熱: 火災のおそれ
飲み込むと有毒
重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
重篤な眼の損傷
臓器の障害のおそれ(呼吸器)
呼吸器への刺激のおそれ
水生生物に非常に強い毒性

注意書き
安全対策

: 使用前にSDSを読み安全注意を理解するまで取扱わないこと。
他の容器に移し替えないこと。
この製品を使用する時には、飲食及び喫煙をしないこと。
指定された個人用保護具(安全帽、保護眼鏡、保護面、呼吸器用保護具、保護手袋、保護衣、保護長靴など)を着用すること。
取扱った後は、手、顔などをよく洗うこと。
環境への放出を避ける。

救急処置

: 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
衣類にかかった場合、直ちにすべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
汚染された衣類を再使用する場合には、洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
漏出物は回収すること。

保管

: 積荷、パレット間に空気の間隙をあけること。
他の物質から離して保管すること。
湿気、日光を避け、換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

廃棄

: 内容物または容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 混合物	
化学名又は一般名	: 硫化水素ナトリウム	水
慣用名又は別名	: 水硫化ソーダ、水硫化ナトリウム	-
CAS No.	: 1671-80-5	7732-18-5
成分及び濃度	: NaSH 20~49%	-
化学式	: NaSH	H ₂ O
官報公示整理番号	: (1)-416(化審法)	-

4 応急措置

吸入した場合	: 鼻、喉を刺激するので、直ちに水でうがいをし、新鮮な空気の場合に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い場合には直ちに医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。 多量の石鹼と水で洗うこと。 直ちに医師の診断を受けること。 汚染した衣類は再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	: 直ちに医師に連絡すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の洗浄が遅れたり、不十分な場合は、眼の障害のおそれがある。

水硫化ソーダ，南海化学株式会社，O17，第7版，3/7

- 飲み込んだ場合 : 速やかに口をすすぎ、直ちに医師の手当て、診断を受けること。
意識がない場合は、何も与えず、無理に吐かせない。
- 応急措置をする者の保護に必要な
注意事項 : 「8 暴露防止及び保護処置」の項に記載の保護具を着用する。

5 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 大量の水、水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、ソーダ灰、石灰。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水、炭酸ガス消火剤
- 火災時の特有の危険有害性 : 火災により硫化水素ガス及び亜硫酸ガスの刺激性、毒性、又は腐食性のガス及びヒュームを発生するおそれがある。
特に硫化水素ガスは引火性が強く爆発するおそれがある。
フレアー燃焼効果により速やかに燃焼するおそれがある。
加熱されたり火炎に巻き込まれると、爆発的に分解するおそれがある。
消化後再び発火するおそれがある。
硫化水素の臭気を感じた時は、付近の住民を避難させる。
- 特有の消火方法 : 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。
消化作業は風上から行い、分解ガスを吸入しないように心掛ける。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
容器内に水を入れてはいけない。
消化後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火活動を行う者の特別な保護具
及び予防措置 : 消火作業の際、適切な空気呼吸器、化学用防護服を着用する。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及
び緊急時措置 : 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止法及び保護処置」の項目を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避けること。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
回収が終わるまで十分な換気を行うこと。
密閉された場所に入る前に換気すること。
- 環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。
河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合でも、水を散布し湿らさない。（水と反応するため）
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 危険でなければ漏れを止める。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
乾燥した土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで拡散を防止し、雨に濡らさない。
漏洩物を完全撤去、区域換気と清掃を行う。

7 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 「8 ばく露防止及び保護具措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項 : すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わないこと。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。
空気に接触させないこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
眼に入れないこと。
接触、吸入又は飲み込んでではない。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- 接触回避 : 「10 安全性及び反応性」を参照。

保管	
安全な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> : 直射日光や高温多湿を避けて保管する。 光のばく露により、徐々に分解するので、容器は遮光する。 吸湿性があるので、乾燥した場所に保管する。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、「医薬用外劇物」の表示を行う。 積荷、パレット間にすきまをあける。 他の物質から離して保管する。 使用後は、容器を密栓する。 混触危険物、食料、飼料から離して保管する。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。
安全な容器包装材料	: ガラス、ポリエチレン、SUSなどの耐食性の材質で、国連運送法規で規制されている容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない
許容濃度	
米国産業衛生専門家会議 (ACGIH) (2019年)	: 設定されていない
日本産業衛生学会 (2019年)	: 設定されていない
設備対策	: 貯蔵ないし取扱う場所には洗顔器と安全シャワーを設置すること。 取扱場所には局所排気装置又は全体換気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	: 適切な呼吸器保護具を着用すること。 防毒マスクには硫化水素用、亜硫酸ガス用の吸収缶を使用する。
手の保護具	: 保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	: 保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	: 不浸透材質の保護服、保護長靴を着用すること。

9 物理的及び化学的性質

物理的状態	: 液体
色	: 無色又は、わずかに黄色がかった透明な液体
臭い	: 硫化水素臭
融点・凝固点	: 16°C (48%品) (凝固点)
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 127°C (48%品)
可燃性	: 不燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし (硫化水素として下限4.3vol%、上限46vol%)
引火点	: 不燃性
自然発火点	: 不燃性
分解温度	: データなし
pH	: 11以上
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水に易溶。アルコール、エーテルに可溶。
n-オクタール/水分分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 1.3 (20°C) (密度) (48%品)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10 安定性及び反応性

反応性	: 酸類、酸化剤と接触すると激しく反応する。
化学的安定性	: 空気中で徐々に酸化され、硫化ナトリウム、チオ硫酸ナトリウム、亜硫酸ナトリウムなどに変質する。

危険有害反応可能性	: 酸類、酸化剤と接触すると激しく反応し、硫化水素を発生する。 水硫化ソーダ、南海化学株式会社、O17、第7版、5/7
	加熱すると硫化水素、亜硫酸ガスを発生する。
避けるべき条件	: 日光、高温
混触危険物質	: 酸類、酸化剤
危険有害な分解生成物	: 硫化水素、亜硫酸ガス、硫化ナトリウム

1.1 有害性情報

急性毒性	
経口	: ラットLD ₅₀ 値=96mg/kg、115mg/kg、200mg/kg (硫化水素ナトリウム無水として) IUCLID (2000) に基づき計算を適用したが、計算値がこれらのデータの最低値よりも小さいため最低値を採用し、区分3とした。
経皮	: データなし (分類できない)
吸入 (気体)	: データなし (分類できない)
吸入 (蒸気)	: データなし (分類できない)
吸入 (粉じん及びミスト)	: データなし (分類できない)
皮膚腐食性/刺激性	: IUCLID (2000) にはウサギ試験の結果としてirritatingとのみ記述されているが、HSD B (Access on Jun 2005) にはヒトへの影響としてcorrosive irritant to skinとの記述があり、HSFS (1999) にもcorrosive chemicalであるとの記述があることから、区分1A-1Cとした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激	: IUCLID (2000) にはウサギ試験の結果としてirritatingとのみ記述されているが、HSD B (Access on Jun 2005) にはヒトへの影響としてcorrosive irritant to skin, eyesとの記述があり、HSFS (1999) にもcorrosive chemicalであるとの記述があることから区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器感作性	: データなし (分類できない)
皮膚感作性	: データなし (分類できない)
生殖細胞変異原性	: in vivoでの生殖細胞および体細胞を用いた変異原性試験および遺伝毒性試験データは無く、in vitroでの変異原性試験結果は、Priority2のRTECS (Access on Aug 2005) およびIUCLID (2000) に記載の殺菌を用いた復帰変異試験 (各1件) のみのため、分類できないとした。
発がん性	: データなし (分類できない)
生殖毒性	: データなし (分類できない)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: HSFS (1999) には鼻、のど、肺に刺激性があり、高濃度暴露では息切れ、肺水腫を起こすとの記述から区分2 (呼吸器) とした。また、HSD B (Access on Jun 2005) にはヒトへの影響として皮膚、眼、粘膜に腐食性がある (corrosive irritant to mucous membranes) との記述があることから、気道刺激性があると判断し、区分3とした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: データなし (分類できない)
誤えん有害性	: データなし (分類できない)

1.2 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期 (急性)	: 魚類 (ファットヘッドミノー) の96時間TL _m =0.0071-0.55mg/L (HSD B 2004) から、区分1とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 水中で分解して水溶液が強塩基となるのが毒性の要因と考えられ、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため、区分に該当しないとされた。
残留性・分解性	: データなし (分類できない)
生体蓄積性	: データなし (分類できない)
土壌中の移動性	: データなし (分類できない)
オゾン層への有害性	: データなし (分類できない)

1.3 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性及び有害性を十分告知の上、処理委託する。
-------	--

必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害水硫化ソーダ、南海化学株式会社、017、第7版、6/7

性のレベルを低い状態にする。

①沈殿分離法

本品を水で希釈し、塩化鉄（Ⅲ）の水溶液を加えて、硫化鉄の沈殿を生成させる。沈殿物はろ過して分取し、産業廃棄物として適正に処分する。

②酸化法

本品を水で希釈し、10倍程度に希釈した過酸化水素や次亜塩素酸ナトリウムなどの酸化剤水溶液で適切に処理（特定化学物質障害予防規則 第11条 硫化ナトリウム処理方式に準拠）し、産業廃棄物として適正に処分すること。

汚染容器及び包装

：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14 輸送上の注意

国連番号 : 3266
品名 : その他の腐食性物質（無機物）（液体）（アルカリ性のもの）
分類 : 腐食性物質
クラス :
容器等級 : II
海洋汚染物質 : 該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしないこと。
他の危険物のそばに積載しないこと。
移送時にイエローカードの保持が必要。

15 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物質「硫化水素ナトリウム」（施行令第18条別表第9）
名称等を通知すべき危険物及び有害物質「硫化水素ナトリウム」（施行令第18条の2別表第9）
毒物及び劇物取締法 : 劇物「硫化水素ナトリウム及びこれを含有する製剤」（毒物及び劇物指定令第2条）
消防法 : 非該当
大気汚染防止法 : 非該当
水質汚濁防止法 : 非該当
海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Z類物質「硫化水素ナトリウム溶液（濃度が45重量%以下のものに限る。）」
船舶安全法 : 腐食性物質「その他の腐食性物質（無機物）（液体）（アルカリ性のもの）（危規則第2、3条危険物告示別表第1）」
港則法 : 腐食性物質「その他の腐食性物質（無機物）（液体）（アルカリ性のもの）（施行規則第12条）」
航空法 : 腐食性物質「その他の腐食性物質（無機物）（液体）（アルカリ性のもの）（施行規則第194条危険物告示別表第1）」
道路法 : 車両の通行の制限「劇物」（施行令第19条の13）

16 その他の情報

参考文献

- (1) ACGIH (2003)
- (2) SIDS (1996)
- (3) ICSC (2002)
- (4) HSDB (Access on Jun 2005)
- (5) RTECS (Access on Aug 2005)
- (6) IUCLID (2000)
- (7) 日本産業衛生学会 (2004)
- (8) HSFS (1999)
- (9) DFGOT (1998)

(10) Patty's Industrial Hygiene and Toxicology (51th, 2001)

水酸化ソーダ, 南海化学株式会社, 017, 第7版, 7/7

(11) 化学物質の危険・有害性便覧, 中央災害防止協会 (1992)

(12) GHS分類結果 (住化技術情報センター)

(13) 日化協「緊急時応急処置指針, 容器イエローカード (ラベル方式)」

(14) 日化協「化学物質法規制検索システム」(CD-ROM) (2005)

(15) 日本ケミカルデータベース(株)「化学品総合データベース」(2005)

お問い合わせ先

担当部門 : 営業本部 大阪ケミカル営業部
電話番号 : 06-6532-5591
FAX番号 : 06-6532-5597

「記載内容の取扱い」

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報に基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

記載データや評価に関しては、情報の提供であって、どのような保証をするものではありません。なお、注意事項は、通常
の取扱いを対象としたものですから、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施のうえ、お取
扱い下さい。

—

—

-

-

—

—

—

-

-

-

-

-

-

-

-

-

